

重要：アース戻しケーブルを接続してください。

LINN製品をご愛顧頂き、誠にありがとうございます。

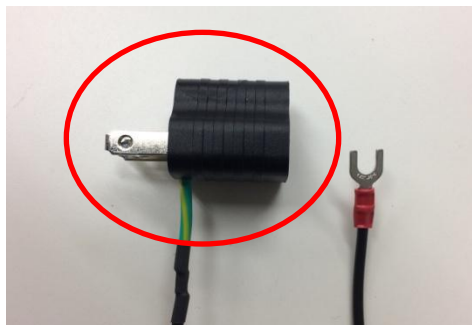
お買い求め頂いたパワーアンプ内蔵のDSM製品(KIKO DSM、SNEAKY DSM、MAJIK DSM)に限り、同梱のアース戻しケーブルをお使い下さいますことをお願い申し上げます。

アース戻しケーブルを使用することで、製品本来のパフォーマンスを発揮します。

※アースが不適切な場合、時間とともに音質が低下し、主に、低域がつまり、中高域に、もやつき感やキツさが出て参ります。

ご使用方法は、下記をご参照ください。

1. 同梱のアース戻しケーブル末端の2ピン-3ピン変換プラグに、付属の電源ケーブルを取り付けます。



2. MAJIK DSMの場合：アース戻しケーブル先端のY型プラグをDSMリアパネルのGRD端子に接続します。
KIKO DSM、SNEAKY DSMの場合：アース戻しケーブル先端の円形プラグをDSMリアパネルの電源近くのネジに接続します。(ネジへの接続は同梱の専用ドライバーをお使いください)

※SNEAKY DSM 接続箇所



<SNEAKY DSM接続例>



※KIKO DSM 接続箇所



<KIKO DSM接続例>



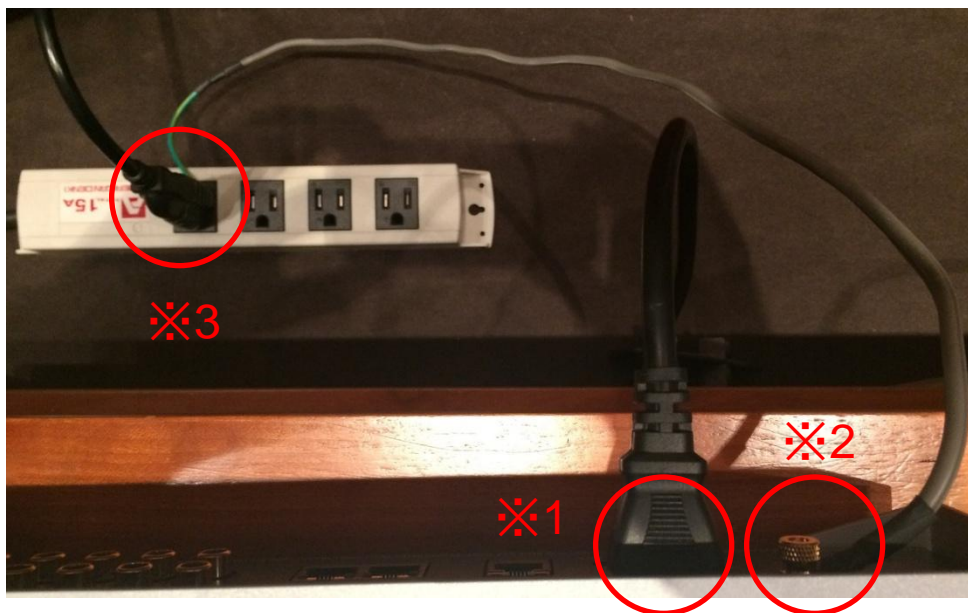
※MAJIK DSM 接続箇所



<MAJIK DSM接続例>



本体に接続後、電源ケーブルをコンセント、または、電源タップに差し込みます。接続後は、下記のようなイメージとなります。(※MAJIK DSMを使用)



接続時のご注意点

- ※1. 電源ケーブルが本体にしっかり差し込まれているか？
 - ※2. アースケーブルを止めるネジが緩くないか？
 - ※3. コンセント、電源タップの極性が正しいか？
- ※極性の確認方法につきましては、次のページをご参照ください。

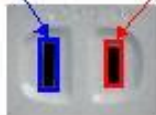
※「コンセント、電源タップの電源極性」もご確認方法

また、本機は可能な限り単独に電源を取って頂くことをお勧めします。
(TVやBlu-rayプレーヤー等の映像機器、NASなどと分けてお取りください。)

コンセントの極性

左側の長い方
コールド側(アース側)

右側の短い方
ホット側



電源タップの極性



電源の極性を調べる場合には、テスターや検電ドライバーをお使いください。

※手がぬれていないことを確認の上、慎重にお調べください。



検電ドライバーで確認する場合

※検電ドライバーをコンセントに差し込んで、
ドライバー内のLEDが明るく点灯した方がホット側。



テスターで確認する場合

※テスター本体を必ずACV(交流電圧)レンジに設定の上、
一方(赤)の端子をコンセントのソケットどちらかに
差し込んで、もう一方(黒)を手で持ちます。

テスターの数値が大きい方がホット側です。

正しい極性がわかりましたら、アース戻しケーブルの末端を下記のように、差し込んでください。



アースケーブル

※電源ケーブル接続時の注意

コンセントに向かって、右側がホット側の場合、
電源のアースケーブル(DSM本体に繋ぐケーブル)が、
上側となります。

左側がホットの場合は、アースケーブルは下側となります。